

菊池 恵介 きくち・けいすけ（同志社大学 グローバル・スタディーズ研究科教授）

1968年生まれ。東京外国語大学卒業。ブリュッセル自由大学哲学研究科(DEA)を経て、パリ第12大学(ヴァルドマルヌ校)哲学研究科博士課程修了。博士(哲学)。現在、同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授。専門は、社会思想史。著書に『近代世界システムと新自由主義グローバリズム』(共編著、作品社、2014)、「ユーロ危機の真相～欧州通貨統合の矛盾とEUの南北分断」『世界』(8月号、2020年)、「新自由主義の覇権の終焉～フランス左派連合の躍進とブルジョワ・ブロックの迷走」『世界』(2022年10月号)など。

Ahmed Boubeker (サンテチエンヌ大学 社会学部教授)

1961年生まれ。リヨン第二大学社会学・人類学部卒。パリ社会科学高等研究院博士課程修了。博士(社会学)。現在、サンテチエンヌ大学社会学部教授。専門は、社会学、ポストコロニアル研究。著書に *Les plissures du social: Des circonstances de l'ethnicité dans une société fragmentée*, PUN - Editions Universitaires de Lorraine (単著、2016年)。(avec Piero Galloro) *Les non lieux de la mémoire des immigrations en Lorraine: Mémoire et invisibilité sociale*, PUN - Editions Universitaires de Lorraine (共著、2016年)。*L'Europe des passés troubles: Postcolonialisme, post-nazisme, postcommunisme le partiQue N°47*, (編集、2022年)など。

Hélène Le Bail (パリ政治学院国際関係研究所 専任研究員)

フランス国立東洋言語文化学院で修士課程を修了。Science Po パリ政治学院大学院で博士課程(アジア研究、国際関係学専攻)、その後早稲田大学でポストドクター、日仏会館の研究員を経て、CNRS フランス国立科学研究センター Science Po パリ政治学院、研究教授を務める。研究課題は移民政策について、特に女性の移住ルート(結婚、生殖労働、セックスワーク)、移住者とその子孫の動員、集団行動、政治参加に焦点を当てて比較研究している。著書に『国境政策のパラドクス』(森千香子、エレン・ルバイ共編、勁草書房、2014年)、『排外主義を問いなおすーフランスにおける排除・差別・参加ー』(共編著、勁草書房、2015年)、Khatharya UM and Hélène Le Bail 編 *Génération post-réfugiées. Les descendants de réfugiés d'Asie du Sud-Est en France* (ポスト移民の世代。フランスにいる東南アジア移民の子孫たち、Presses universitaires François Rabelais, 2023年)など。

鄭 栄桓 (明治学院大学 教養教育センター教授)

1980年生まれ。明治学院大学法学部卒業。一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了(社会学博士)。現在、明治学院大学教養教育センター教授。専攻は歴史学(朝鮮近現代史、在日朝鮮人史)。著書に『歴史のなかの朝鮮籍』(以文社、2022年)、『忘却のための「和解」 『帝国の慰安婦』と日本の責任』(世織書房、2016年)、『朝鮮独立への隘路 在日朝鮮人の解放五年史』(法政大学出版局、2013年)など。

Choukri Ben Ayed (リモージュ大学 文学・人文科学部教授 GRESCO* 研究員)

* Groupe de recherches sociologiques sur les Sociétés contemporaines

専門は社会学、教育社会学。著書に *L' école discrimine-t-elle ? Le cas des descendants de l' immigration nord-africaine*. Choukri Ben Ayed. Éditions du croquant, 2023. *École : les pièges de la concurrence. Comprendre le déclin de l' école française*. Sylvain Broccolichi, Choukri Ben Ayed, Danièle Trancart. La découverte, 2010. *Les groupes professionnels et l'internet*. Lise Demailly, Bernard Convert, Agnès van Zanten, Catherine Agulhon, Anne Barrère L'Harmattan, 230 p., 2007, Logiques sociales.

園山 大祐 そのやま・だいすけ（大阪大学 人間科学研究科教授）

大阪大学人間科学研究科教授。博士（教育学）。専門は教育社会学、移民・外国人研究、フランス教育制度・政策研究。著書に『若者の権利と若者政策』（明石書店、2023年）、『SDGs時代にみる教育の普遍化と格差』（明石書店、2023年）、『教師の社会学』（勁草書房、2022年）、『教育機会保障の国際比較』（勁草書房、2022年）、『コロナ禍に世界の学校はどう向き合ったのか』（東洋館出版社、2022年）、『公教育制度の変容と教育行政』（福村出版、2021年）、『学校から離れる若者たち』（ナカニシヤ出版、2021年）、『フランスの高等教育改革と進路選択』（明石書店、2021年）など。

大嶋 えり子 おおしま・えりこ（慶應義塾大学 経済学部准教授）

1984年生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程満期退学。博士（政治学）。専門はフランス政治、移民研究。主な著書に単著『ピエ・ノワール列伝—人物で知るフランス領北アフリカ引揚者たちの歴史』（パブリブ、2018年）、『旧植民地を記憶する—フランス政府による〈アルジェリアの記憶〉の承認をめぐる政治』（吉田書店、2022年）、茂木謙之介・大嶋えり子・小泉勇人編著『コロナとアカデミア』（雷音学術出版、2022年）など。

森 千香子 もり・ちかこ（同志社大学 社会学部教授）

1972年生まれ。フランス社会科学高等研究院博士課程修了。博士（社会学）。現在、同志社大学社会学部教授、同志社大学・都市共生研究センター（MICCS）代表。専門は国際社会学、都市社会学、レイシズム研究。著書に『ブルックリン化する世界—ジェントリフィケーションを問いなおす』（東京大学出版会、2023年）、『排除と抵抗の郊外—フランス〈移民〉集住地域の形成と変容』（東京大学出版会、2016年）など。

中野 裕二 なかの・ゆうじ（駒澤大学 法学部教授）

1963年生まれ。九州大学法学部卒業。九州大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士（法学：九州大学）。現在、駒澤大学法学部教授。専門は、政治社会学。著書に『フランス国家とマイノリティー共生の「共和制モデル」』（国際書院、1996年）、宮島喬編『移民の社会的統合と排除—問われるフランス的平等』（共著、東京大学出版会、2009年）、『排外主義を問いなおす—フランスにおける排除・差別・参加』（共編著、勁草書房、2015年）など。

浪岡 新太郎 なみおか・しんたろう（明治学院大学 国際学部教授、国際学部附属研究所所長）

1971年生まれ。中央大学法学部卒業。フランス国立エクサンプロヴァンス政治学院博士課程満期退学。博士（政治学：立教大学）。現在、明治学院大学国際学部教授、国際学部附属研究所所長。専門は、政治社会学、平和研究。著書に『排外主義を問いなおす—フランスにおける排除・差別・参加』（共編著、勁草書房、2015年）、飯田文雄編『多文化主義の政治学』〈サピエンティア 59〉（共著、法政大学出版局、2020年）、庄司克宏他編『トランスナショナル・ガバナンス』（共著、岩波書店、2021年）など。

孫 占坤（明治学院大学 国際学部教授、国際学部附属研究所主任）

1962年生まれ。1982年日本へ留学。名古屋大学大学院法学研究科博士課程満期退学。現在、明治学院大学国際学部教授、国際学部附属研究所主任。専門は国際法。著書・論文に「中国から見た日米安保」（『法律時報』増刊号、2010年）、「戦後日本領土外交的歴史演変」（『边界与海洋研究』第2巻2号、武漢大学、2017年）、「国境を超える人びと」（『平和研究』53号、2019年）『東アジア国境紛争の歴史と論理』（共著、藤原書店、2022年）など。